

夜間学校 ニュース

1988年 4月 1日
西成区萩之茶屋2-8-9
旅路の里気付
釜ヶ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人・中国人の
指紋押なつ拒否断固支持！
定住外国人に市民権を！

みんなで つくろう

みんなの 会館

毎週金曜日

夜七時より

市民館三階

釜ヶ崎夜間学校

三人よれば 何とかの 知恵

雨の降る日は天気が悪い

屋外労働者の生活

いかに守らん

先週の金曜日は確か雨が降っていたよりに思う。一日中だったかどうかは忘れてしまったが……。そんな天気で頭にきてイキマイていたのがSさん。雨が降る中を道路の工場の部分のコンクリ打ちを十一時くらいまでやって、現場監督も予定の八割方の仕事は片付いたと云い、オ

ヤジも一人工だすような口ぶりだったのに、伝票を切った息子が、昼まで仕事してないからと五分しか付けてくれなかったという。それで、ぬれて仕事してアブレよりも少ないんじや仕事せんぼうがました、常識を知らんにもほどがあるといきまっていたのだ。昔から言われているのに

「出戻り三分に又レ七分」という言葉がある。朝現場に行つて向うの都合で仕事にならなかつた場合、日当の三割は出す。また仕事途中で雨が降つた場合、最後まで日当の七割は出す、という慣習をあらわしたものだと思ふ。それからしても、Sさんの例はケタオチな話だ。伝票を預つてた人間がその場で話せんのが悪い、だが伝票持ってたんやと聞くと、Sさん自身というにとだった。やっぱり、話はその場で

仲間への死

本籍・住所不詳、氏名自稱松下正盛、年齢61歳の男、身長170センチ、体格普通、着衣赤色スポーツシャツ、茶色ベスト、紺色ズボン、ラフダのパンツ、白パンツ、遺留金品現金246円、腕時計カ×ラ。右の者は、昭和61年3月18日午後2時ごろ西成区太子1-1-11簡宿ホテル中央8階21号室にて発見されたもので、同月17日午前4時ごろ（推定）同所において脳内出血により死亡したものと思われる。

きっちりつけるべきだった、と

いうのがみんなの意見だった。

しかし、雨で仕事が多くなった場

合の日当支払については、バラ

ツキが多いようだ。その二日前

も午前中に雨が降った。その時

私は仕事に出たが、一時間

ちょっとぐらい仕事して、十一

時に帰って一人工もらった例も

ある。

現場に行っただけの都合で

仕事にならなかった場合は、

出戻り三分」と昔は言っていたけど、

現在の考え方で行くこと、やはり

一人工丸々保障というのがスジ

だと思つた。仕事にならない責任

は労働者の側になく、それから

釜に帰っても仕事をさがせない

のだから。

雨の場合は、いくら天気予報

のあたる率が高くなったといっ

ても、やはり、はずれることも

ある。仕事が多くなっても誰の責任

でもないわけだ。

だからといって、日当を時間

で割っておけばいい、というこ

とにはならないだろう。

雨で仕事が多くなる場合、それ

までにたいがい又しているはず

で、人間、やはり又して仕事す

るのはイヤで当然、それをガマ

ンしていくばくかでも仕事を進

めているのだから、その分はみ

てもらわなくては困る。単純に

時間で割るといふのはムチャだ。

三時まで仕事してれば、ある

いは現場で待期していれば、待

期も仕事のうちで、一人工は当

然だろう。

バラツキが大きいののは、午前

中にバシた場合だと思つたが、こ

れについては、出来るだけ一人

悪くて七分というのが常識的な

線ではなかろうか。どう思う？

日本寄せ場学会

第二回総会・研究発表会

京大楽友会館

(土) 4月2日 午後1時～6時
 (日) 4月3日 午前9時～12時

京都市バス
 201・206・31・65系統
 「近衛通」下車すぐ

※会員以外の方々の来聴を歓迎!

当業者として釜の多くの仲間が関心を持ち、ちよつと遠いけど

ゼニカネ以外のこと...

脱・原発

二五日夜間学校が終わって、

しさんと教文茶屋商店街を歩い

ていると、二人に囲まれてケラ

れたり、殴られている仲間がい

たので、とめに入つた時にちよ

つとモミあって、メガネがとび

こわれちゃった。

翌26日と27日は、以前、釜に

も来た解放社会学会の大会に参

加するため東京へ。そして、四

四月二日(土)午後

記念講演 師岡佑行氏

研究発表

・「問題」としての日傭労働者

―戦前の大阪市調査報告の検討―

・アルジェリア移民

・釜ヶ崎における労働者流入の構造

四月三日(日)午前

・山谷周辺住民意識調査報告

・一九八八年三月「釜ヶ崎労働ゼミ」報告

聞きに行き、意見を言おう!

月二、三日は京都へ。

金が出るばかりだが、世の中

ゼニ、カネ抜きでやらなければ

ならないことが、パイがある。

そしてゼニ、カネになつても

やらない方がいいこともある。

原発への反対運動が高まって

いる。原発への不安にはうなづ

けるものがある。原子力発電所

はもうつくるべきではない。つくる

ことに力を使わずに済ませたいと考える。